



宮島包ヶ浦自然公園整備計画に係る 第1回ワークショップ

テーマ「包ヶ浦自然公園の現状把握」

2025年10月28日（火）13:30～16:45 @包ヶ浦自然公園管理センター 参加者16名

■第1回ワークショップについて

現在は、一部閉園となっている包ヶ浦自然公園の利活用にあたって、地域が有する豊かな自然環境や資源を最大限に活かしながら、地域住民とそのあり方を共有することが求められています。持続的な活用や適切な維持管理について、地域と行政が協力して検討し、土地利用計画や運営管理計画に反映することを目的に、ワークショップを開催しました。

■宮島包ヶ浦自然公園の施設概要

施設名	建築年	保有機能
管理センター	昭和55年	事務室、食堂、浴場、売店、集会室
ビーチハウス	昭和53年	休憩室、シャワー室、更衣室、売店
家族用ケビン	昭和56年	8棟16戸（各戸定員 4名）
団体用ケビンA	昭和57年	13棟（6棟-定員14名、7棟-定員24名）、炊事棟、ケビンハウス（浴場棟）
団体用ケビンB	昭和59年	2棟（定員16名）
テニスコート	昭和55年	レストハウス
運動広場	昭和55年	15,000m ²
キャンプ場	昭和55年	管理棟、炊事棟、トイレ ※環境省エリア内

■当日の様子

当日は、宮島で活動されている各団体から16名にご参加いただきました。
第1回ワークショップでは、冒頭にこれまでの事業経緯やワークショップの目的等を市から説明した後、包ヶ浦自然公園の状況を確認するため、現地視察を行いました。
グループワークでは、4つの班（裏面参照）に分かれて、包ヶ浦自然公園が持つ資源や課題を改めて整理しました。また、整理した資源（S:強み）や問題（W:弱み）と、地域や社会全体にとっての追い風（O:機会）や悪影響（T:脅威）を掛け合わせる「SWOT分析」により、包ヶ浦自然公園の新たな利活用のアイデアについて意見交換を行いました。利活用のアイデアとして、自然の活用・共存や既存施設の活用、SNS等による情報発信など、様々な視点からの意見・提案がありました。



	プログラム
13:30～13:55	■開会のあいさつ ■これまでの経緯、ワークショップの目的等
13:55～15:05	■包ヶ浦自然公園の現地視察・調査
15:05～16:10	■グループワーク ①包ヶ浦自然公園が持つ資源・問題点の抽出 ②SWOT分析（強み・弱み・機会・脅威）の視点から、活用に向けたアイデアを検討
16:10～16:40	■各班からの発表 ■ワークショップコーディネーターからの講評
16:40～16:45	■閉会のあいさつ

■現地視察の様子

現地視察では、包ヶ浦自然公園の有する自然環境や整備されている主要施設を確認しました。公園内には、絶滅危惧種の「シバナ」が生息する汽水池があります。また、利活用検討エリア内の主な施設として、管理センター、運動広場（弥山浄化槽汚泥の搬出や工事資材運搬のためのヘリポートとしても利用）、テニスコート、各種ケビン等があります。これらの施設は昭和50年代に新築・整備されたものが多く、老朽化した部分はこれまで適宜改修されてきました。



家族用ケビン



管理センター



ビーチハウス



運動広場



団体用ケビンA



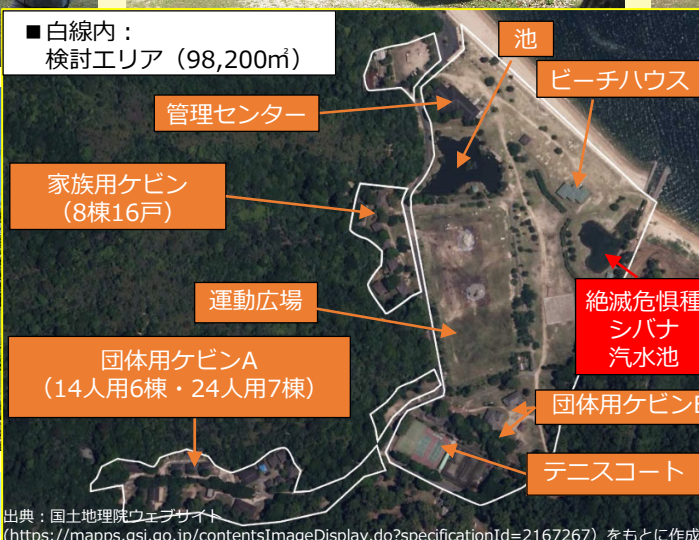
テニスコート



団体用ケビンB



シバナが生息する汽水池



■白線内：
検討エリア（98,200㎡）

池

ビーチハウス

管理センター

家族用ケビン（8棟16戸）

運動広場

団体用ケビンA（14人用6棟・24人用7棟）

団体用ケビンB

テニスコート

絶滅危惧種
シバナ
汽水池

出典：国土地理院ウェブサイト
(<https://mapps.gsi.go.jp/contents/1ImageDisplay.do?specificationId=2167267>) をもとに作成

■今後のスケジュール

第1回では、分科会ごとに分かれて資源・問題点、活用方法等を整理しました。その結果を踏まえ、次のワークショップまでに各々分科会を開催する予定です。第2回では分科会での検討結果を共有し、他の参加者と意見交換、すり合わせ等を図ります。そして、第3回ではこれまでの活用イメージを図として作成します。

分科会では、包ヶ浦自然公園において必要となる機能や施設など、具体的な検討等を行っていきます。

	プログラム
第1回 (10/28)	■「包ヶ浦自然公園の現状把握」 ⇒包ヶ浦自然公園の資源・問題点、活用アイデア
第2回 (12月頃)	■「活用イメージの共有」 ⇒分科会での検討結果の共有及び意見交換・すり合わせ
第3回 (1月頃)	■「活用イメージ図の作成」 ⇒活用イメージ図（案）に対する意見交換・管理、運営の分担～実効性の確認

現況や課題、
方向性の確認

各活動テーマの
具体的な検討

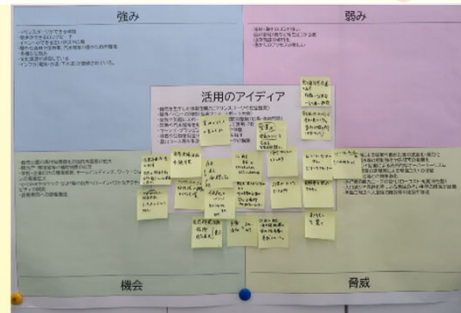
分科会

- ◆自然保護部会
- ◆利用促進部会
 - ・利用・運営イメージによる必要機能、施設整理
 - ・収益エリアでの配慮事項整理
- ◆誘致事業検討部会
 - ・収益施設の条件設定

■ワークショップで検討した利活用のアイデア

1班 自然保護部会

NPO法人宮島ネットワーク
みやじま未来ミーティング
宮島地区パークボランティアの会



1. 利用してもらいたい人・目指す姿

包ヶ浦自然公園は、宮島に住んでいる人や廿日市市民にとって身近に親しまれる場所とすることが重要だと意見がありました。特に子どもや若い世代が豊かな自然の中で学び、成長でき、訪れるたびに新しい発見がある公園が良いとの意見がありました。

2. 自然・環境を生かした学びと体験

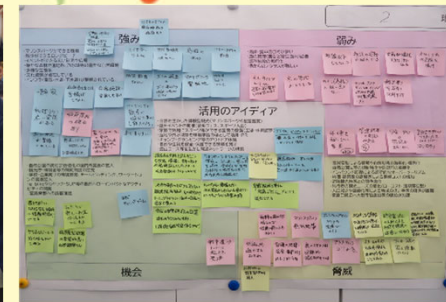
包ヶ浦の豊かな自然や海を舞台に、体験型の学びを充実させる意見が多く出されました。漂着ごみの回収や再利用、清掃活動を通じて環境問題を体感できる活動や、カキ・海運等の地元産業を学ぶプログラムの実施等の提案がありました。また、植物や文化財を活用した自然解説、ネイチャーガイドの育成、学校や市職員の研修の場としての活用など、学びと交流が生まれる拠点づくり、宮島の自然・文化を満喫するための受入体制の強化（ソフトの充実と長期滞在型への転換）等の様々な提案がありました。

3. 包ヶ浦から広がるネットワークと発信

自然を生かした周遊ルートやウォーキングマップの整備、放置自転車を活用したサイクリングの推進など、アクセス性と回遊性を高める提案が多く出されました。さらに、宮島ブランドを発信する拠点として、ガイド人材の見える化やSNS・アプリを活用した情報発信も重要であるため、デジタル技術や流行のコンテンツを取り入れながら、包ヶ浦の魅力を多様な世代に伝えていくことが重要だと意見がありました。

2班 利用促進部会

宮島包ヶ浦自然公園を守る会



1. 生物多様性の保全と共存

包ヶ浦自然公園でヒメボタルやアカテガニの生息地を活かした自然観察や磯の生物教育、防災教育、ゴミ調査・収集活動など、自然環境に直接触れる体験を維持していくことが重要だと意見が出ました。また、運動広場や海岸での清掃活動も含め、環境保全や安全対策についても意見がありました。

2. 既存施設の再生と活用

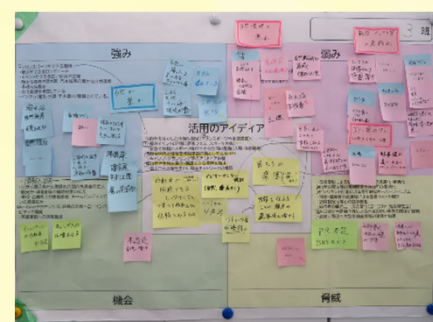
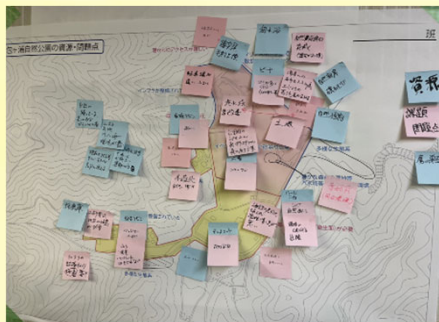
既存のケビン改装・整備し、青年の家や合宿施設として再活用することで、吹奏楽部やオーケストラ等の合宿や、キャンプ場の整備、地元食材を使ったバーベキュー事業の再開など、宿泊・学習拠点としての活用について提案がありました。また、施設の老朽化や安全面の対策についても意見がありました。

3. 包ヶ浦のブランド化と情報発信

害獣駆除を兼ねて「宮島ジビエ」ブランド化や、各旧市町に生息しているホテルの「はつかいちホテルマップ」を展示場に設置、パークボランティアのデジタル支援、厳島神社や木工の市のストーリー発信、観光経済特区やネーミングライツによる資金調達等に取り組むことなど、様々な提案がありました。

3班 利用促進部会

宮島町総代会
宮島町商工会



1. 自然の活用と鹿との共生

海水浴や磯遊び、自然植物の観察、鹿との共生など、包ヶ浦の豊かな自然環境を活かした体験活動をするについて意見がでました。そのため、鹿たちの楽園として一部を自然に戻す取組や、ホテルの増加など、生物多様性を学ぶ場としての整備を行う等の提案が多く出されました。

2. 体験型の移動手段の充実や回遊性の強化

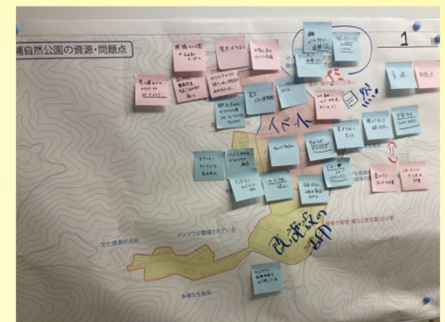
包ヶ浦や杉之浦へは、インバウンドの自転車利用者が増加しており、これを活かして水族館周辺から自転車で回遊できるレンタサイクルや、ウォーキングコースの整備、観光周遊に関する情報発信など、移動自体を体験価値にする提案がされました。

3. デジタル発信と体験価値向上

現在、SNSによるPR不足が懸念されるため、自然や歴史の学習機能を備えたビジターセンターでVR等の体験型学習により、観光価値を向上し、自然・文化の保全の両立を図ることが重要だと意見がありました。

4班 誘致事業検討部会

宮島旅館組合
宮島観光協会



1. 自然を活かした宿泊・体験施設の機能強化

グランピングやエコハウス、トレーラーハウス、星空バス、ペットと泊まれる施設、ドッグランスペース、市民プール、修学旅行向け環境学習など、自然環境と既存施設を活かした多様な宿泊・体験の整備や提供の提案がありました。また、新たなコンテンツの開発として、早朝ヨガ等の朝活や夜間のナイトコンテンツを開発し、時間帯ごとの体験価値を広げる提案もありました。

2. 宮島での移動体験と回遊性の向上

七浦めぐりや包ヶ浦までのワクワクするストリートづくり、歩く仕掛け、栈橋⇄包ヶ浦のエコカーレンタル、サイクリングロードの整備、船で宮島を一周する体験など、公園までのアクセスや島内周遊の移動そのものを楽しめる仕掛けを提案されました。

3. 観光イベントの実施による魅力創出

ドローンショーやチームラボとのアートイベント、池を活用した企画、ボランティア体験、貝殻工作、ビーチクリーンとゴミアートなど、包ヶ浦独自のイベントや体験を通じて、滞在価値と環境保全の意識向上を図る取組など、様々な提案がありました。